三月 春の女流能

三月二十七日（日）
午後十三時始
正午開場
於　宝生能楽堂

13:00

巻絹

シテ　内田　克徳
ツレ　藪　芳子
ワキ　村瀬　提
イロエ
間　山本　則重
後見　山内　崇生　亀井　雄二
地謡　武田　伊左　葛野　りさ　土屋　周子　内田　朝陽　柏山　聡子　前田　親子　松田　若子　広島　栄子　里子
大鼓　大倉　栄太郎
小鼓　大村　華由
太鼓　梶谷　英樹
笛　小野寺　竜一

14:10

附子

山本　則孝
山本　則秀
山本　泰太郎

〈休憩十五分〉

14:50

杜若

シテ　影山　道子
沢辺之舞
ワキ　福王　和幸
後見　金森　秀祥　水上　優　當山　淳司
地謡　武田　伊左　葛野　りさ　土屋　周子　内田　朝陽　柏山　聡子　後藤　裕子　松田　若子　広島　栄子　里子
大鼓　柿原　光博
小鼓　岡本　はる奈
太鼓　小寺　真佐人
笛　八反田　智子

〈休憩十五分〉

16:35

乱

シテ　関　直美
ワキ　梅村　昌功
後見　宝生　和英　東川　光夫
地謡　上野　能寛　佐野　弘宜　内藤　飛能　東川　尚史
大鼓　佃　良太郎
小鼓　大山　容子
太鼓　金春惣右衛門
笛　藤田　貴寛　大友　順　武田　孝　佐野　登史　小倉　伸二郎

終了予定　十七時二十分頃

演目の解説

能「巻絹」（まきぎぬ）

勅命により千匹の熊野に集
使役の巻絹を
立て、
首尾一貫した
限りなく
続く
詠歌
の
言葉
に
、
晴れ
ての
舞
楽
を
奏
でよ
と
の
仰せ
。
男
女
の
神
が
舞
い
遊
ぶ
。
実
に
めでたい
。

能「杜若」（かきつばた）

今
を
盛
り
と
咲
き
誇
る
八
橋
の
杜
若
。
国
下
の
美
しい
女
が
呼び
寄せ
られ
て
、
東
の
方
へ
と
旅
を
する
。
杜
若
の
花
の
咲く
頃
、
三
河
の
国
に
着
いた
。
高
い
橋
を
渡
り
、
八
橋
の
杜
若
の
花
を
見
て
、
昔
の
人
の
歌
を
思
い
出
す
。
すると
、
一
人
の
女
が
現
れ
て
、
杜
若
の
花
を
摘
み
、
歌
を
詠
じ
ながら
舞
う
。
その
女
は
、
実
は
杜
若
の
精
であり
、
僧
に
向
かって
、
この
国
の
中
を
訪
ねて
来
た
のは
、
杜
若
の
花
を
見
て
、
昔
の
人
の
歌
を
思
い
出
す
ためだ
と
言
う
。
僧
は
、
その
話
を
聞
いて
、
杜
若
の
花
を
見
ながら
、
その
歌
を
詠
じ
ながら
舞
う
。
女
は
、
僧
の
詠
じ
た
歌
を
聞
いて
、
その
歌
を
詠
じ
ながら
舞
う
。
僧
は
、
女
の
舞
を
見
て
、
その
舞
を
真
似
て
舞
う
。
女
は
、
僧
の
舞
を
見
て
、
その
舞
を
真
似
て